

各 位

会社名 株式会社Speee
代表者名 代表取締役 大塚 英樹
(コード番号：4499 東証スタンダード)
問合せ先 取締役CFO 西田 正孝
ir@speee.jp

2026年9月期第2四半期決算説明会（動画）及びQ&A

2026年5月15日（金）に、株式会社Speee（本社：東京都港区、代表取締役：大塚英樹、以下：当社）の9月期第2四半期決算説明会を行いました。

2026年9月期第2四半期の決算説明資料のご説明と、4月に取締役久田が登壇した自民党デジタル社会推進本部「次世代AI・オンチェーン金融構想PT」での発表内容のご共有、および直近投資家様からいただくことが多い主なご質問に対する回答に関して、動画とレポートにてご報告いたします。

■決算説明会 動画

当社代表大塚、取締役久田よりお話ししました、決算説明会につきましては、以下URLよりご視聴ください。なお、決算説明会においてご説明した、自民党デジタル社会推進本部「次世代AI・オンチェーン金融構想PT」での2026年4月7日（火）発表資料も、本日あわせて公開しております。

<https://youtu.be/3b6dxwZU0G4>

- 00:00 決算説明資料のご説明
- 11:50 自民党デジタル社会推進本部「次世代AI・オンチェーン金融構想PT」発表資料
- 41:18 Q&A

■Q&Aレポート

Q. Datachain Privacy・Datachain Walletの詳細を教えてください。

1. 2026年9月期 第2四半期 業績

ステーブルコイン事業 - Datachain Privacy / Datachain Wallet

- ステーブルコインの法人利用に対応するプライバシー基盤およびウォレットの事前受付開始
- プライバシー保護と規制対応を両立したオンチェーン取引環境の整備を推進

Datachain Privacy

企業利用に耐えうる高い運用性を持つ
オンチェーンプライバシー基盤

- ・ ブロックチェーンの透明性により、取引情報や関係性が外部から把握されるリスク
- ・ プライバシー確保と規制対応の両立が課題

- ✓ 「匿名性」「機密性」「非リンク性」を満たすプライバシー保護を実現
- ✓ 規制対応を可能にする**選択的開示**に対応
- ✓ エンタープライズ品質の鍵管理とリカバリーに対応

Datachain Wallet

業界初*
ブロックチェーン上のプライバシーに対応した
法人企業向け国産ウォレット

- ・ 秘密鍵管理やセキュリティ確保における**運用負荷が重い**
- ・ 法人業務（承認・会計・監査）への**適合が不十分**

提供価値

- ✓ 鍵管理の**安全性と運用性を両立**
- ✓ 承認・権限管理により組織的な運用に対応
- ✓ 証憑出力やガスレス対応により**業務実務への適合を支援**



ステーブルコイン事業の「Datachain Privacy・Datachain Wallet」についてご説明します。まずプライバシーについてですが、これは2026年のブロックチェーンの技術においては明らかに一番大きなトレンドだと思います。

ブロックチェーンは取引が透明であるということが良いところです。クリプト（暗号資産）を取引する分には外に見えても良いかと思いますが、個人や企業が普段利用している銀行送金の中身が、誰といくら取引しているということが見えてしまうということは、社会的に受容することはできません。そのため企業利用に耐えうるオンチェーンプライバシー基盤というものを作る必要があります。

その中で（画面左下）「匿名性」、「機密性」、「非リンク性」というのがあり、この三つを全部満たさないといけません。「匿名性」というのは「誰が」、「機密性」というのは「どんな取引を」、「非リンク性」というのは「誰と誰が取引しているか」を指します。

例えば匿名性（誰が）だけを隠したいのであれば、昔からあるように、毎回取引ごとにアドレスを発行すれば、誰が行っているか分かりにくいのですが、結局いくらの取引をしているかというのが分かっしまいます。次に機密性のところで、いくらの取引かを暗号化して隠せたとしても、結局誰が行っているのか、誰と誰が取引しているのかが分かっしまいます。匿名性、機密性を隠せたとしても、結局「ここここが毎回取引しているからグループ会社なのか。親密先なのか。」というように推測できてしまいます。

これら三つを全て満たすプライバシー保護技術で、世界のスタンダードになっているものはまだなく、明確に我々が世界に進んで良いものを作れているかと思っています。そのため、ここを勝負にして、日本の金融も進めたいですし我々としてはしっかりビジネスとして獲得していきたいと思っています。

また「選択的開示」というところを太字にさせていただいておりますが、ただ隠せばいい訳ではなく、例えばMUFGさんでしたらMUFGさんの取引、みずほ銀行さんはみずほ銀行さんの取引と、自行の取引は当然見ることができないといけません。将来的には監査を自動化するために、当局（金融庁）や監査法人にも取引を見ることができるようにするなど、選択的開示が必要になります。

「Datachain Wallet」は、「プライバシーに対応した業界初（Datachain調べ）法人企業向け国産ウォレット」と書いております。色々なウォレットがありますが、個人の方がよく使っているMetaMask、機関投資家がよく利用しているFireblocksというように、暗号資産向けのウォレットの勝者は決まっていると思いますが、エンタープライズ向けのウォレットの競争というのはこれからであり、しかもそのプライバシーにそもそも対応しないといけません。

我々はそのプライバシーの技術を独自に持っています。さらに言うと、鍵管理の安全性・運用性の両立のところで、Passkeyのような新しい鍵の署名の仕方の方がリアルワールドでは使いやすいかと思っています。また、Datachain Walletは組織にとって重要な承認権限管理が可能であり、証憑出力やガスレス対応の業務実務への適合も支援します。

プライバシーというのは非常に重要になっていて、そのプライバシーを搭載した世界でも先進的なウォレットを我々が提供できているとご理解いただけると幸いです。

■会社概要

社名：株式会社Speee

事業概要：金融DX事業、レガシー産業DX事業、DXコンサルティング事業

設立：2007年11月

所在地：東京都港区六本木三丁目2番1号

代表者：代表取締役 大塚 英樹

証券コード：4499（東証スタンダード市場）

URL：<https://speee.jp/>

■本件に関するお問い合わせ
株式会社Speee IR担当 ir@speee.jp